

## 2020 年度歴史地震研究会 第 1 回幹事会議事録

場所:Web 会議

日時:2020 年 8 月 4 日(火) 17:00~20:20

出席者:松浦(会長), 堀川(副会長), 諸井(財政), 盆野(行事), 加納(広報), 行谷(編集出版), 中村(監査), 植竹(監査), 西村(次期行事), 大邑(総務)書記,

### 1. 2021 年苫小牧大会について

【資料 1】歴史地震研究会 2021 年苫小牧大会

- ✓ これまで 2 回ほど苫小牧の市役所・博物館等で打ち合わせを行い好意的な感触を得ている
- ✓ 日程は 9 月第 1 週を予定しており, 市の防災イベントとタイアップする形で研究会の市民講座を土曜日午後開催したい(北海道胆振東部地震 3 周年にあたる)
- ✓ 日程は①2 日~5 日, もしくは②3 日~6 日を考えている. 最終日の巡検をいつ行うかが課題  
→5 日(日曜)であれば巡検に参加しやすい事, 交通混雑傾向を考慮し②の日程を進めることを決定
- ✓ 会場は美術博物館, 市民会館, 文化交流センター(アイビー・プラザ), 市民活動センターが候補  
→使用料・機能面から文化交流センターに決定. 会場予約は 1 年前から可能なので申込みを行う.  
→今年度の総会でおおまかな場所と日程を告知

### 2. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況 (財政)

【資料 1】2. 入退会者の承認及び 2019 年度会費の受取状況

- ✓ 入会者 0 名, 2019 年度末退会者 2 名, 同休会者 0 名, 同会員特典停止 16 名, 会員特典復活 0 名,  
→退会者を承認し特典停止会員への会費督促を順次行うことを確認
- ✓ 2019 年度末会員数 260 名
- ✓ 2019 年度会費受取状況: 支払義務のある会員 282 名のうち 265 名が支払い済み(会員の 94%)
- ✓ 未納者は 16 名(会員特典停止者)+逝去した 1 名の 17 名
- ✓ 2020 年年度会費は現時点で 23 名が支払い済, 2021 年度も 1 名が支払い済み
- ✓ 督促の経緯: 2020 年 4 月 1 日の 49 名への督促により 18 名が納入, 同 7 月 1 日の 32 名(うち 1 名は新入会員)への督促で 14 名が納入 (新入会員を含めた 50 名に督促を行い 34 名が納入)
- ✓ 7 月 20 日~27 日の間に 1 名が納入(この 1 名は会誌送付先リストの追加提出で対応)
- ✓ 7 月 27 日~31 日の間に 1 名が納入(この 1 名には着払いで会誌 35 号を送付)
- ✓ 2020 年度に入ってから 2019 年度会費を払った会員は特典復活するが 35 号は送らない方針  
→会誌最新号を希望し送料を負担する人には適宜送ることに決定
- ✓ 2018 年度末に会員特典が停止となった 43 名のうち, 復活した 3 名を除く 40 名は, 会則第 11 条 2 項により 2019 年度末に除名処分となる.

### 3. 2020 年伊賀大会の開催について (行事)

【資料 3】第 37 回歴史地震研究会伊賀大会 準備状況④

【資料 4】第 37 回歴史地震研究会 (伊賀大会) のお知らせ (第 3 報)

【資料 5】歴史地震研究会伊賀大会の開催について(新型コロナウイルス関係)

【資料 6】(参考)新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた『三重県指針』ver. 3 (抜粋)

- ✓ 伊賀文化産業協会・伊賀上野観光協会への後援申請については 6 月中に申請予定であったが状況の

変化に伴い現在申請を保留中

- ✓ 各種申込状況：公開講演会 40 名，大会参加 60 名，発表申込 50 件(口頭 38 件・ポスター12 件・ほか 1 件)，要旨提出 44 件，発表判断保留 3 件，未提出 3 件，ほか 1 件，懇親会 33 名，巡検 25 名
- ✓ 第 3 報には感染症の状況により変更・中止の可能性のある旨を記載
- ✓ 地元への広報やメディアへのプレスリリースも保留中
- ✓ 中止の場合各所への報告，バス・ホテル等のキャンセルが必要
- ✓ 研究発表の代替案の検討が必要
- ✓ 現在第 2 波の最中であり三重県でも 7 月 31 日以降連日 2 桁を超える新規感染者が発生 8 月 3 日には県内で 20 名と 1 日の新規感染者数として過去最多を更新，三重大学でのクラスターの発生も確認された
- ✓ 三重県知事は 8 月 3 日『緊急警戒宣言』を発令(不要不急の移動や来県を控える要請)
- ✓ 9 月に延期開催を予定していた「忍者フェスタ」や 10 月開催の「天神祭」も中止が決定していることもあり住民感情も考慮したい
- ✓ 対応として下記の案が考えられる
  - 【第 1 案】すべてのプログラムを中止し，研究発表会と総会のみリモートで実施(全員の参加が可能か?)
  - 【第 2-1 案】すべてのプログラムを中止し，要旨集をもって研究発表会に代え，総会は書面で開催
  - 【第 2-2 案】すべてのプログラムを中止し，要旨集をもって研究発表会に代え，総会は書面で開催するが要旨は発表 1 件につき 2 頁に拡充(要旨集の印刷送付の経費捻出が課題)

〈意見〉

- 第 2 案の場合，要旨集を印刷する必要はなく，PDF の研究会 HP への掲載で済ませられる(パスワードをかける事も可能)最終的には 36 号に要旨は掲載される(印刷される)
- 印刷する費用・参加者への送付など行事委員の負担が重すぎる
- 要旨集への掲載をもって発表したとみなす場合 36 号への論文投稿の際に質が確保されるか懸念される(既発表の場合は査読者 1 名で良いとされているため)
- 研究発表で質疑の時間を設け議論を行うことが重要
- 総会はオンライン参加できない人もいるので書面で良いのでは。メール等で投票を行いその結果を発表する形としてはどうか。
- オンライン発表が難しい発表者には要旨 2 頁拡充等の救済措置を行うことで対応してはどうか
- ポスターは PDF で作成してもらいそれをウェブに掲載することで対応できる
- 事前にパワポデータを提出してもらい開催側で操作する事も可能
- 発表申込み時にはオンライン開催の可能性を伝えていなかったため改めて発表形式の変更や取り下げのアンケートをとりプログラムを組み直す必要がある
- 伊賀での大会を再来年以降に開催できる場合，公開講演会はその時のために温存しておけば良いのではないか(これはその時の市の協力体制にもよる)
- 巡検資料を予稿集もしくは会誌 36 号に掲載する等も検討したい

〈決定事項〉

- 第 1 案を採用することとし研究発表会は ZOOM を使用することで決定(新規の契約は不要)
- 公開講演会・懇親会・巡検の開催は難しいと判断し中止(公開講演会は現地で行われる事に意義がある点，市民への公開を前提に行政から後援を得ている点を考慮し中止(再来年以降に

- 伊賀で大会が開催される可能性を考え講師陣を温存))
- 要旨集は印刷せず PDF で作成し研究会 HP にアップロードする(参加登録者のみ閲覧可能とする)
  - ポスターを事前に HP にアップロード(参加登録者のみ閲覧可能とする)
  - 日程(26~28 日)・プログラムは基本的にずらさず参加料は無料とする方針で行う
  - オンライン開催に変更した旨を会員等に早々に告知する
  - 発表者には発表成立条件などの必要事項を連絡する
  - 発表形式の変更・取り下げ等のアンケートを発表者に行うことを決定
    - 選択肢：ZOOM での口頭発表・ポスター発表・要旨 2 枚・発表取り下げ
  - 発表形式の変更を反映させたプログラムを第 4 報に掲載する
  - 宇佐美会員の特別講演についてはインターネット回線の状況、面会が可能か等を考慮してできる範囲で対応することを決定(中止もあり)
    - ※後日、感染が拡大している状況から録画も難しいと判断し来年以降に延期と決定
  - 同時開催で進めていた伊賀上野城での展示は延期とする
  - 総会は委任状(定足数以上)を集める形式で行う(会則には電磁的な方法でも可となっているため ZOOM の投票機能等を使用することを検討)

#### 4. 総会の準備(総会資料案等)について(総務・財政)

【資料 7】2019 年度決算報告, 2020 年度予算案他

【資料 8】第 37 回総会資料(案)

- ✓ オンライン開催用に微修正が必要
- ✓ 議長の依頼と日程調整位を行う
- ✓ 詳細部分についてはメールにて追加修正作業を行い 8 月中旬頃までに原稿を確定する
- ✓ 決算については現在監査中のため確定次第原稿に反映させる
- ✓ 苫小牧大会については本日の幹事会で決定したことを予定として掲載する

#### 5. 『歴史地震』の編集について(編集出版)

【資料 9】5. 「歴史地震」の編集について

- ✓ 7 月末に 35 号が無事発行され会員に送付された
- ✓ 7 月末に編集出版委員会のウェブ会議を実施し反省点や改善点を議論した(査読のあり方等について)
- ✓ 11 月末にも会議を開催し編集方針の確認を行う予定
- ✓ 前回から議題にしているように「報告」原稿の扱いについて編集規定の改定を行いたい
  - 文言等のチェックを後日メールで行うことを決定
- ✓ 次号以降の編集出版委員を増やすことを委員会内で検討中(建築分野が専門の人物など)
  - 決定次第報告する
- ✓ 近年会員数や論文の掲載数等が増加傾向にあるため編集出版委員会の作業の一部を外注したいと考えている
- ✓ 会員数 300 名程度の学会について年会費や会誌の編集に関する金額, 事務員の雇用状況などについて調査を行った
- ✓ 結論を急ぐわけではないが会費の値上げやページチャージ制の導入など持続可能な仕組みについて長期的な視点で探っていきたい

〈意見〉

- 編集作業を印刷業者に外注(版組み)しても委員の負担が減らない可能性がある
- 外注するよりも委員の増員やチェック要員を増やす方が負担軽減されるのではないか
- 大幅な会費値上げを行うと会員数が減少する可能性も考えられる
- ページチャージを導入すると投稿数が減る可能性がある
- 若干の会費の値上げとページチャージ制導入の両方を行う方法もある(会員と投稿者の両方で負担)
- 外注した場合の見積もりをとってみる必要がある  
→印刷業者に見積もりをとって次回以降示すこととする

## 6. 広報活動について (広報)

【資料10】(広報活動に関する報告)

- ✓ 研究会(会員)・musha メーリングリストの登録・変更を随時おこなっている(35号添付の案内による追加・修正)
- ✓ ホームページの更新:伊賀大会第3報の掲載ほか
- ✓ 今後の作業:17号のPDF掲載,35号目次の掲載,索引の更新
- ✓ mushaの整理再登録  
→mushaよりも会員メーリスの整理の方を最優先に行う(最新名簿を財政から提供)
- ✓ 以前協力依頼のあった小学館の件は取下げとなった
- ✓ Musha規約の改正は後日メールにてチェックする

○次回幹事会は9月8日17時~開催の予定 (Web開催)

以上